

令和5年度 学校自己評価 中間報告

重点目標	具体的取組	主担当	実施状況の判断基準	判定基準	集計結果	成果・後期に向けての改善
1 授業実践力の向上 (教科指導の充実)	① 国語科「読むこと」の資質・能力向上を目指した授業改善に取り組みながら、自分の担当している教科の授業にも目を向け授業改善に取り組む。☑	研究研修課	担当している教科で授業計画シートを1枚以上書き、他の教員の作成したものを含め検討を3回以上行った教員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合、取り組みを再検討する。	担当している教科で授業計画シートを1枚以上書き、他の教員の作成したものを含め検討を3回以上行った教員の割合が46% 判定D	現時点では、授業計画シートを書いている割合が68%だが、未記入の教員も今後実施予定であり、最終的には80%を超える事が予想される。また、検討した回数についても、今後各部研究会で研究授業を実施したり、12月に実施予定の教科指導充実事業拡大授業研究会が計画されたりしていることから全教員が2回以上に授業計画シート・指導案等の検討を予定している。授業計画シートに目指す姿や単元計画、発問などについて記入し検討することで授業改善につながっている。今後も計画のとおり研究授業を行い、授業改善に取り組んでいく。
2 地域社会との連携	① 学校、児童、保護者等の関係者が交流及び共同学習の意義やねらい等について共通理解し、実際の活動において主体的な活動を促す交流活動の充実に取り組む。	小学部	当日の活動の中で児童が主体的に活動する姿が見られたり、活動後の振り返りで児童が「楽しかった」等の感想を述べたりすることができた割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合、取り組みを再検討する。	当日、児童が主体的に活動する姿が見られたり、活動後の振り返りで児童が「楽しかった」等の感想を述べたりすることができた割合 前期100% 判定A	居住地校交流は、22校実施予定のうち、11校の実施、学校間交流においても、2回実施予定のうち1回実施を終えた結果である。どちらの交流及び共同学習においても両校の担当者が、2回以上の打ち合わせを行い、児童の実態を共通理解した上で、活動を計画したことが成果につながったと考える。学校間交流においては、活動や時間を重ねることで児童同士が自ら関わる場面が増えた。居住地交流においても相手校の温かな歓迎や関わりを受けてどの児童にも笑顔や自ら関わる場面になることが期待できる。
	② 生徒が地域で販売活動を行い、地域社会で様々な人と主体的に関わる姿勢を育成する。	中学部	校外での販売活動を通して、地域の様々な人との関りにおいて成長が見られた生徒の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合、取り組みを再検討する。	12月以降に判定	JA能登わかばへ出向いての販売活動を木工班の生徒を対象に7月に1回実施し、生徒にアンケートを実施した。生徒からは「楽しかった」「お客さんに製品を手渡しできて嬉しかった」「もっとゆっくり対応した方がよかった」等の意見があった。今後も、事前学習でお客さんとの関わり方を指導したり、生徒が考えたりする学習を行い、木工班の生徒を対象に2回目、クラフト班の生徒を対象に2回実施し12月に調査、判定をする。

重点目標	具体的取組	主担当	実施状況の判断基準	判定基準	集計結果	成果・後期に向けての改善
2 地域社会との連携	③ 生徒が高等学校・農業法人等と連携した実習を行い、やりがいを感じ、地域に貢献する態度の育成に取り組む。	高等部	事後のアンケートで「取り組んでみてよかった」等やりがいを実感した生徒と教師の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合、取り組みを再検討する。	「取り組んでみてよかった」等やりがいを実感した生徒と職員との割合  64% 判定 C	農工班に所属する生徒8名と職員6名が、農業法人と連携した実習を9月までに計14回行った。生徒からは「収穫に適した野菜の見分け方が分かり、他の農工班の仲間にも教えることができた。」、職員からは「圃場管理について専門的な知識を得ることができた。」などの成果が挙げられている。一方で、地域連携（高校等の連携や就労への繋がり）で十分な成果に至らず課題となっている。今後も農業法人や高校と連携した実習も計画しており、再検討は行わず取り組みを継続していく。
3 安心・安全な学校づくり	① 中・高等部の該当の生徒を対象にSNS等ネットワーク使用において、他者とのやりとりを適切に行う学習に取り組む。	生徒指導課	ネットワーク使用で他者とのやりとりを適切に行う学習を、各期に1回以上取り組んだ学級の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合、取り組みを再検討する。	各期に1回以上、ネットワーク使用で他者とのやりとりを適切に行う学習を行ったクラスの割合 前期100% 判定 A	中・高等部の対象となる生徒に対してはHR活動、部集会、休み時間や文化祭の出し物を通しての活動など、様々な場面において指導を実施している。生徒間でも「それはマナー違反だよ」と声を掛けたり、心配な点を教員に相談したりする姿が見られた。後期には企業と連携した一斉指導も実施する予定であり、各期に1回以上の指導が可能になると考えている。
	② メディアやICT機器の活用において、児童生徒の心身の健康を保つ適切な関わり方が身につく学びに取り組む	健康推進課	6月10月に提出してもらう「すこやかカレンダー」の家庭の提出割合が、 A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合、取り組みを再検討する。	6月のすこやかカレンダーの提出率 前期84% 判定 A	提出率は概ね達成できた。6月のすこやかカレンダーでは「各家庭でゲームやテレビを視聴する時間を決めて実行する」取り組みは、やりやすい内容であり、「食事中はテレビを消す」という取り組みは難しかった。という保護者の感想が多く、各家庭での実態が分かった。10月のすこやかカレンダーでは、適切なメディアコントロールをねらいとして「睡眠」についての項目を変更し、各家庭で就寝時刻を決めて実行することにした。